12/25 赤旗

25道県で高齢者4割超

推計50年

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は22日、2050年までの日本の地域別将来推計人口を公表しました。50年には65歳以上の高齢者が人口に占める割合が25道県で40%を超え、最も高い秋田ではほぼ半数に達します。東京を除く46道府県で20年に比べて人口がマイナスになる見通しで、東京一極集中が加速する傾向が浮かび上がりました。

推計は20年の国勢調査に基づき、50年までの30年間の人口の変化を5年刻みで都道府県、市区町村別に試算しました。

50年時点の全国の総人口は20年比17・0%減の1億4668万6000人。外国人の増加を受けて18年の前回推計よりも減少率は緩和されるものの、都道府県別では20年以降、東京を除く46道府県で減少が続き、40年以降は東京でも減少に転じます。11県で人口が20年比で30%以上減少します。減少率が最も高いのは秋田の41・6%で、青森(39・0%)、岩手(35・3%)と続きました。

50年に65歳以上人口の割合が40%を超えるのは、秋田(49・9%)をはじめ25道県で、最も低い東京でも29・6%と約3割に達します。

75歳以上人口も50年には東京を除く46道府県で2割を超えます。

全国の総人口に占める東京の割合は20年は11・1%でしたが、50年には13・8%に拡大。神奈川などの割合も増え、首都圏に人口がさらに集中すると予測しました。

市区町村別では、50年の人口が20年の半分以下に減る自治体が約2割に上り、減少率は群馬県南牧村が74・8%で最も高く、次いで熊本県球磨村(73・3%)、奈良県野迫川村(72・5%)でした。65歳以上が人口の半数以上を占める自治体は3割を超える見通し。

46道府県で人口減の予測

	20年比増減率 (%)	65歳以上人口の割合 20年	50年		20年比増減率 (%)	65歳以上人口の割合 20年	50年
全国	▲17.0	28.6	37.1	三重	▲23.9	29.9	39.6
北海道	▲26.9	32.1	42.6	滋賀	▲13.5	26.3	36.7
青森	▲39.0	33.7	48.4	京都	▲19.5	29.3	38.5
岩手	▲35.3	33.6	45.9	大阪	▲17.8	27.6	36.6
宮城	▲20.5	28.1	39.4	兵庫	▲20.3	29.3	39.5
秋田	▲41.6	37.5	49.9	奈良	▲28.2	31.7	43.3
山形	▲33.4	33.8	44.3	和歌山	▲31.5	33.4	43.7
福島	▲32.0	31.7	44.2	鳥取	▲26.7	32.3	40.9
茨城	▲21.7	29.7	40.0	島根	▲25.9	34.2	39.7
栃木	▲22.3	29.1	39.6	岡山	▲20.0	30.3	37.8
群馬	▲21.6	30.2	40.0	広島	▲20.4	29.4	37.4
埼玉	▲ 9.7	27.0	35.5	山口	▲31.0	34.6	42.3
千葉	▲ 9.5	27.6	35.5	徳島	▲33.2	34.2	44.8
東京	2.5	22.7	29.6	香川	▲23.8	31.8	39.7
神奈川	▲ 7.7	25.6	35.0	愛媛	▲29.2	33.2	43.0
新潟	▲30.7	32.8	43.2	高知	▲34.8	35.5	45.6
富山	▲26.4	32.6	41.4	福岡	▲12.8	27.9	35.1
石川	▲20.8	29.8	38.3	佐賀	▲23.5	30.6	39.3
福井	▲25.3	30.6	40.3	長崎	▲33.8	33.0	43.4
山梨	▲24.5	30.8	41.7	熊本	▲22.0	31.4	38.8
長野	▲22.8	32.0	41.6	大分	▲25.1	33.3	40.5
岐阜	▲25.8	30.4	40.6	宮崎	▲25.5	32.6	40.8
静岡	▲22.1	30.1	39.6	鹿児島	▲26.3	32.5	41.2
愛知	▲11.5	25.3	34.5	沖縄	▲ 5.2	22.6	33.6